



未曾有の水害で

お米は大はづれ

十三年の米收穫高の發表によれば

一割四分七厘の減收

縣統計課の調査發表による昭和十三年に於ける茨城縣米收穫高は百六十七萬七千二十七石で、前年の收穫高二百二十二萬六千八百三十三石に對比すると五十四萬九千五百六十六石（二割四分七厘）の大減收を見、前五ヶ年平均收穫高に比しても三十八萬九千六百三十三石（一割八分八厘）の減收である。其の作付反別は十三萬二千五百三十四町八反步で前年の作付反別に比し一千七十七町七反步（八厘）を減じたが、前五ヶ年平均作付反別に比し五千二百六十一町歩（四分二厘）を増加したのにこんな増收を見たのは、稲作が移植後低温寡照だったので分蘖が思ふ様でなかつたところへ六月下旬から縣下一般を襲つた未曾有の大水害によつて生育が著しく阻害され、其の後天候の多照によつて幾分生育は恢復したが、八月下旬になつ降

て再び低温寡照の状態となり、八月二十七日の大降雨及び九月一日の暴風雨によりて再三被害があり、九月下旬になつて氣温の變化が多かつたので登熟を阻害されたので、水稻は前年に比し三割四分八厘を減收した。併し陸稻は概して順調に經過し、平年に比し生育が良好で、九月一日の風害を蒙り登熟の阻害せられたものもあつたが、早害が全然なかつたので前年に比し六割七分一厘の増收を見たので結局前記の様な收穫を見た譯である。郡市別及び最近五ヶ年間に於ける作付反別收穫高は左の如くである。（△印は減）

郡市名	作付段別	收穫高	前年收穫高	前年收穫高比増減
東茨城	三、三三・三	一七、〇六五	一八、九三三	△
水戸	三〇・六	二七、〇二	三、八七	△
新治	三、五二・八	一八、八六六	三、七、四八	△
筑波	九、七二・九	一四、五〇〇	一、〇、二〇	△
筑波	三、三三・〇	一四、〇〇〇	三、三、三〇	△
真壁	三、三三・〇	一四、〇〇〇	三、三、三〇	△
結城	八、八七・二	一〇、三三三	一、四、〇〇	△
鹿島	一〇、〇二・六	九、五五〇	一、八、六三	△
北相馬	五、六〇・一	六、八六六	一、〇、三三	△
合計	三三、五〇・八	一、七、七〇七	二、三、六二二	△

郡市名	作付段別	收穫高	前年收穫高	前年收穫高比増減
水戸	三三・六	一、四、一三	二、八、四三	△
東茨城	六、〇〇・三	一〇、〇〇八	三、八、八六	△
西茨城	四、八七・六	七、八六〇	九、五、八九	△
那珂	五、六四・九	八、五五五	二、四、三〇	△
久慈	六、四三・一	七、〇四四	三、三、五二	△
多賀	三、六五・八	六、四四四	七、三、六九	△
鹿島	六、四三・八	九、九三〇	三、三、三三	△
行方	五、九四・一	八、五二四	三、三、三〇	△
新治	三、三三・〇	一、九、二五	三、八、七三	△
筑波	九、三〇・八	一、七、八三三	二、九、四四	△
真壁	七、〇〇・〇	一、四、〇八	二、九、〇九	△
結城	九、四三・九	一、四、七七一	三、三、六九	△
合計	五、九三・四	一、四、二八	三、六、三六	△

種別	年別		收穫		高計		作付		段別	
	昭八	昭九	陸稻	水稲	陸稻	水稲	陸稻	水稲	陸稻	水稲
猿島	四,四七五	四,四三三	八六,五五五	△四,四三三	五,五九一	五,九七一	三〇,三七七	三六,八四三		
北相馬	四,八三五	五,三三五	一〇一,二六三	△四,八〇八	八,六〇六	八,七四四	一,三三三	七,四四一		
合計	四,六五五	五,一五八	二,〇〇四,一〇三	△六九,三六八	三〇,八九三	三〇,一八三	三三,〇八一	一〇九,一〇一		

前五ヶ年間に於ける收穫高及作付反別

種別	年別	收穫		高計		作付		段別	
		水稲	陸稻	陸稻	水稲	陸稻	水稲	陸稻	
昭八	昭九	一,六二四,四一〇	二,〇四一,五九〇	二,〇四五,五九〇	八九,九四三	三〇,六九二	三〇,六九二	二〇,六三三	
同	同	一,六三五,三六〇	二,九七,七六〇	一,九五,〇六〇	九三,〇五九	三〇,五五八	三〇,五五八	三三,六七七	
同	同	一,三三七,七九八	三,四四,四三三	一,七五,二二三	九四,二四九	三三,八七七	三三,八七七	一八,〇三六	
同	同	一,九九九,九八八	四,〇二,五八六	二,三六,四四六	九八,八八〇	三六,四四九	三六,四四九	一三,四四五	
同	同	二,〇〇四,一〇三	三,三〇,八二一	二,三六,一八三	九四,九四〇	三六,三三四	三六,三三四	一三,六三五	
前五ヶ年平均		一,七九七,〇〇〇	三,〇六,五九〇	二,〇六,〇九〇	九三,九四六	三〇,七九二	三〇,七九二	二七,三三八	
昭和十三年		一,〇五八,四四四	七〇一,二八三	一,六七,〇三七	九四,六五五	三〇,八九一	三〇,八九一	一三,五五八	

繭は不作

養蠶の掌控と 水害の影響で

昭和十三年に於ける茨城縣の養蠶戸数は五萬八千八百四十七戸で、蠶種掃立數量は五百六十二萬千七百七十一瓦(春蠶二百

六十七萬千八百一十二瓦、夏秋蠶二百九十四萬九千二百六十九瓦)前年に比し六十三萬三千九十二瓦(一割一厘)を減じた(春蠶三十四萬九千八百五十四瓦、一割一分六厘減、夏秋蠶二十八萬三千二百三十八瓦、八分八厘減)之は繭價安を見越し一般に掃立を掌控へたのと、夏秋蠶に於ては六月の水害と九月一日の暴風雨によつて桑樹の被害が甚大だつたのと、努力不足等によつたもので、之が爲繭産額も前年に比し五十三萬四千七百七十九貫(一割三分八厘)四百二十二萬四千九百九十九圓

(二分九厘)の減收を見た。其の内譯は春蠶十四萬四千六百九十九貫(七分一厘減)三百八十七萬五千二百二十一圓(三割四分六厘減)夏秋蠶二十九萬百七十貫(二割一分減)三十四萬九千七

郡市別	養蠶戸數		掃立數量		收繭		高		前年收繭高 =比増減
	實戸數	春蠶戸數	春蠶	夏秋蠶	總數	春蠶	夏秋蠶		
水戸	五〇	五〇	二,三六一	二,〇〇〇	三,五七二	一,五七二	一,〇〇〇	△一,四七二	
東茨城	五,〇五四	四,六七九	四九,三三九	四〇,〇〇〇	八九,三三九	三九,八八八	二八,九〇〇	△五,八五四	
西茨城	二,八六七	二,七三二	二七,〇三三	二六,六六六	五三,七〇〇	二五,七七四	二四,三三三	△一九,四三〇	
那珂	二,四三三	二,四三三	二一,〇七三	二〇,七〇〇	四一,七七三	二〇,五五五	一九,三三三	△一二,四六六	
久慈	三,〇六五	二,六七七	一四,一〇一	九,九四三	二四,〇四四	一〇,七七一	六,三三三	△一,六六六	
多賀	五五	二二	一五,五七五	四,七〇四	二〇,二七九	一〇,八七七	三,五五五	△三,三三三	
鹿島	二,六七三	二,六四四	二四,六〇〇	二二,七五三	四七,三五三	一五,一〇九	八,四四四	△四,七六五	
行方	二,五五四	二,四七七	二二,七二九	二一,四三三	四四,一六二	一三,八〇九	七,七〇〇	△一八,六五五	
新治	九,九六九	九,九三三	九八,六〇〇	四四,〇三三	一四二,六三三	五三,五五八	二五,五三三	△五,五三三	
筑波	七,一七九	七,〇〇〇	八六,五七七	三〇,一四〇	一一六,七一七	四六,三三三	二六,五五五	△三,七七七	
眞壁	四,九四四	四,七〇〇	四四,〇三三	二二,一六六	六六,一九九	二七,七七七	一五,四四四	△一,六六六	
結城	六,一八八	六,〇〇〇	七五,八三三	二八,八三三	一〇四,六六六	四七,七七七	二七,三三三	△六,四四四	
猿島	二,四三三	二,三九四	二二,四三三	二一,五五五	四三,九八八	一四,五九九	八,三三三	△三,五九九	
北相馬	二,四七七	二,三三三	二二,七〇〇	二一,六六六	四四,三六六	一六,九九九	七,九九九	△三,〇〇〇	
合計	五,八四三	五,八二六	五,三三〇,一〇三	二,七二,八二一	八,〇五八,九二四	三,〇九一,八二一	一,四七二,七七一	△一,四七二,七七一	

